

9月
議会

福岡市の学校給食 放射能汚染ゆるすな



一般質問する星野市議＝2011年9月12日

星野美恵子市議が 市をきびしく追及

放射性セシウムに汚染された牛肉（およびその疑いがある牛肉）が4月に福岡市の21の小学校給食に出された問題で、日本共産党の星野美恵子市議は9月12日市をきびしく追及しました。

市教委は事件後に「暫定規制値内であり、健康に影響ない」と発表しましたが、星野市議は低線量でもガンのリスクが生じるとする国際放射線防護委員会の見解もめし、「健康に影響ない」と早々に断じた市教委の態度を批判。さらに、福岡市には食品の放射

性物質を検査する体制がなく、現状では出荷元を信頼するしかないことを指摘しました。

星野市議は、給食の食材の地産地消を本気ですすめること、徹底した情報公開、本市独自の放射性物質の検査体制をつくることを求めました。

質問 通告後 市が食材の産地公表、 検査の体制とる

星野市議がこのテーマで質問を市側に通告した後、市側は地産地消の徹底、給食の食材の産地を毎月公表すること、関東・東北で生産された食材を使う場合、毎月1回放射性物質の検査を実施することなどを発表し、議会答弁でもくわしく説明しました。

市教委には、保護者などから産地公表を求める電話が数多く寄せられていました。



基準以下の放射能汚染 がれき持ち込むな

星野市議は、基準以上の放射能汚染のがれきを「一般廃棄物」として福岡市に持ち込むことは住民の不安をひろげるとして、受け入れを行わないよう求めました。

市は「安全が確認されないものは認めない」として明言を避けましたが、情報公開と地元合意を約束しました。

玄海原発

老朽化の1号機、プルサーマルの3号機 市長はなぜ事故防止へ動かぬのか

星野市議が市長に迫る

9月議会で日本共産党の星野美恵子市議は玄海原発の問題で市の姿勢をただしました。

一般質問する星野市議 9月12日



「やらせメール」事件を「言語道断」とのべたが…

星野市議は、日本共産党があばいた九州電力の「やらせメール」事件への認識を高島市長にただすと、「言語道断」「あつてはならない」と答弁しました。ところが、九電玄海原子力発電所の1号機が老朽化し、緊急冷却で炉がこわれる危険があることを専門家が指摘しており、廃炉を求めるべきではないかとの質問には「国が責任をもっている」と無責任な答弁をしました。

他人事のような答弁

また、星野市議は、危険なプルサーマル運転の3号機についても、事故がおきれば深刻な結果が生じる（左参照）との試算を真剣にうけとめ、再稼働中止を求めよと追及。

しかし市は「国において慎重に判断している」と他人事のような答弁をしました。事故防止へ動かぬとしない

高島市長の主体性のなさが浮き彫りになる中、高島市長に九電関係者から献金がないか尋ねると、市長は否定しました。



3号機の格納容器破裂なら…

プルサーマル

- 10～20km 以内の市町村で人口の6～9割、福岡市は 487 人が急性死
- のちにあらわれるガンで福岡市で 134,100 人、佐賀市で 16,790 人、長崎市で 38,282 人が死亡

長期的に居住不能となる地域の範囲



※小出裕章氏（京都大助教）の指導でつくられた試算
<http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/genpatu/GotoYoko.pdf>

147万市民の命とくらし守る市長がこんな主体性のなさでいいのか

日本共産党
福岡市議団